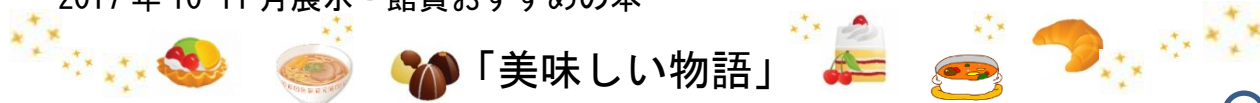


2017年10・11月展示・館員おすすめの本



## 「美味しい物語」

みなさん、いよいよ食欲の秋突入です。夏場に疲れた胃腸も、涼しい気候のおかげで食欲が回復し、色々なおいしいものを食べたいくなるこの時期。読んでいだけで食欲がもりもりと湧いてくる！そんな物語達をご紹介します。食欲の湧きすぎにご注意ください。

(図書館 大久保)



柚木麻子『BUTTER』新潮社 2017

刑務所収監中の首都圏連続不審死事件容疑者である梶井真奈子、通称「カジマナ」。雑誌記者の里佳は、彼女にインタビューを重ねるごと、カジマナの食への執着に圧倒され、自らも食の魅力にのめり込んでいく。中でもバターに対する描写が秀逸。本書カバーの手触りもまさにバターのように。ぜひ手に取って

みて！

宮下奈都『太陽の Pasta、豆のスープ』集英社 2013

レストランで婚約者と食事中、明日羽は前触れもなく別れを告げられる。その日からまともにごはんも食べられず、感情の底辺をさまよう明日羽が、周りの人々の励ましで、徐々に再生し成長していく。人間は食べるもので出来ているという、当たり前なのに気づかせてくれる物語。



アガサ・クリスティー『杉の柩』(クリスティー文庫) 早川書房 2004

あまり評判が良くない英国料理だが、クリスティーの作品には、魅力的な料理が沢山登場する。プティング、ローストターキー、ホットチョコレートなど。本作に登場するサンドイッチもシンプルだが、食べてみたくなる一品。ただし、毒入りにはご用心を。

### 元気が出るレストラン

近藤史恵『タルト・タタンの夢』(東京創元社文庫) 東京創元社 2014

三島有紀子『しあわせのパン』(ポプラ文庫) ポプラ社 2011

群ようこ『かもめ食堂』幻冬舎 2006

### さりげなくおいしそう

中島京子『彼女に関する十二章』中央公論社 2016

小川洋子『博士の愛した数式』新潮文庫 2005

正岡子規『病床六尺』(岩波文庫) 岩波書店 1984

